

( 続紙 1)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                          |    |        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|----|--------|
| 京都大学                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 博士（地域研究）                 | 氏名 | 小川 さやか |
| 論文題目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | アフリカ都市零細商人の商慣行に関する人類学的研究 |    |        |
| <p>（論文内容の要旨）</p> <p>本論文は、タンザニアの都市インフォーマルセクターのうち、商業部門に焦点を当て、零細商人とくに古着商を対象として、商慣行ならびにその変容過程を実証的に明らかにし、さらには商売をめぐる行動規範とそれにかかわる集団化原理について検討することを、目的としている。</p> <p>序章では、都市移入民の経済活動に関する先行研究を検討したのち、彼らの経済活動を実証的に理解する分析枠組みを構築する必要があることを指摘している。また、調査地であるタンザニア北部のムワンザ市の概要に触れている。</p> <p>第1章「ムワンザ市の零細商業」では、現地調査の結果を公的な統計資料のデータで補いながら、零細商業部門は雑多な人々が参入・退出を繰り返す、多様性・流動性の高さを特色としていることを、まず明らかにしている。ついで、本研究で具体的な対象とする古着商が頻繁に転職し、住居を移転し、また通称でしか知り合っていないことを事例で紹介し、彼らの関係が非常に流動的・異種混交的・匿名的なものであることを示している。</p> <p>第2章「零細商業をとりまく政治経済的な変容」では、タンザニア独立後の零細商業を取り巻く国家レベルでの経済・政治的な変化について、時期区分して概観している。それは大きく3つの時期に区分でき、1) 経済危機下での闇市場の勃興&lt;1970年代末～1980年代前半&gt;、2) 経済自由化とインフォーマルセクターの拡大&lt;1980年代中～1990年代前半&gt;、3) 緊縮経済とインフォーマルセクター内部の階層化&lt;1990年代中～&gt;である。</p> <p>第3章「古着流通における商慣行の変遷とマリ・カウリ取引の創出」では、古着流通に焦点を当て、1970年代の密輸交易の発生から、1990年代後半に特異な信用取引であるマリ・カウリ（<i>Mali Kauli</i>）取引が生成するまでの、ともに零細商人である中間卸売商と小売商との商慣行の変容を跡づけている。そして、マリ・カウリ取引は、中間卸売商にとっては信用販売することで小売商を巧みに囲い込み、古着を効率的に流通させることを可能にする一方で、小売商にとっては商売のリスクを抑えて、安定的な経済活動を実現することが可能となるという相互に利点のある商慣行であることを明らかにしている。</p> <p>第4章「マリ・カウリ取引を支える論理と都市的な共同性」では、マリ・カウリ取引における信用の不履行に焦点を当て、背信や裏切りを内包する零細商</p> |                          |    |        |

人間（中間卸売商と小売商）の関係性を考察している。零細商人は取引関係を結ぶうえで、親族や同郷者などの既存の社会関係を重要視していないこと、零細商人は取引相手をウジャンジャ（*ujanja*。機転／狡猾さ）を有するか否かという基準で選んでいることを論じている。

第5章「都市を航海する」では、行動規範であるウジャンジャについて考察している。ウジャンジャは、零細商人が商売を行ううえで不可欠の機知であると同時に、彼らが互いの苦境に共感しあいながらも、過度な期待をもたない「仲間」という関係を維持するために発揮される、互いの力関係や親密性の操作に不可欠の機知である。また互いの力関係や親密性を操作することができなくなった場合は、ウジャンジャは新たな取引関係の構築・再編のために発揮されることを明らかにしている。

第6章「商慣行の変化にみられる自律性と平等性」では、2003年以降の外生的な経済・政治状況の変化を受けて、零細商人間の新たな商慣行が、商取引において通常どおりの駆け引きを繰り返すなかから発生してきたことを明らかにしている。その過程で、零細商人は互いの関係性を水平的なものに保つための微細な働きかけをすることで、状況に対応していたことを紹介している。

第7章「路上空間をめぐるマチンガと商実践」では、2006年の暴動前後の零細商人の動向に注目し、零細商人が巧みに立ち回ることによって、都市空間を構成する諸アクターと相互依存的・共生的関係のネットワークを構築していることを論じている。

終章では結論として、インフォーマルセクター商業部門に分類される都市零細商人が、ウジャンジャという行動規範を背景として、巧みな商慣行を構築・再編し、また最低限の生活を可能とする相互扶助的な関係を作り出していることを強調している。同時に、彼らの商慣行は仲間の生き抜く必要性に対する共感をもとに成立しているが、騙し合いの過程で頻繁な取引関係の解消と再編を繰り返すため、彼らの関係性が境界づけられた共同体の維持・創出に向かわないことも主張している。そして、都市零細商人が、機を読み、他者に働きかけ、反応を効果的に引き出すことに価値を置き、個々の実践に付随する不確実性それ自体を、遊戯性を織り交ぜながら、柔軟に都市を生き抜くための資源として活用・再生産していることを指摘している。

(論文審査の結果の要旨)

本論文は、タンザニアの都市インフォーマルセクター商業部門に分類される零細商人の商慣行ならびにその変容過程と、彼らの経済活動を支える行動規範ならびに集団化原理を実証的に解明することを、目的としている。

1960年代初めに独立したタンザニアは、1967年より社会主義的な国家開発をめざした。そして、それに行き詰まった1980年代半ばに世界銀行・国際通貨基金が推奨する構造調整政策を導入して以来、経済自由化を推進している。構造調整政策に基づき、政府は公務員改革、政府関係機関の統廃合を断行して、公共部門の雇用者数の削減を図ったが、フォーマルセクター民間部門は弱体であったために労働力を吸収できず、余剰労働力はインフォーマルセクターに流入し、都市経済のインフォーマル化が進行したといわれる。しかしながら、肥大化するインフォーマルセクター、なかでも商業・サービス業部門の実態はいまだ十分には明らかにされていない。その第1の理由は、外部者に対して閉鎖的なインフォーマルセクター従事者に受け入れられる人間関係(rapport)を構築して、長期の住み込み調査を行うことが困難なことである。第2の理由は、中央政府ならびに地方行政がインフォーマルセクター製造業部門を育成すべき対象として重視し、従事者数とその数倍の規模に達する商業・サービス業部門を重要な都市生業と認知してこなかったために、学術研究においても同部門が軽視されてきたことである。

本論文の重要な学術的な貢献は第1に、インフォーマルセクター商業部門でみられた商慣行の実態を詳細に叙述したことである。申請者は、タンザニア北部の拠点都市ムワンザ市の低所得者居住区に長期で住み込み、都市零細商人による古着流通の実態を子細に検討した。申請者が調査を開始した時期には、ともに零細商人とみなされている中間卸売商と小売商とはマリ・カウリ(Mali Kauli)取引と呼ばれる信用取引を行っていた。両者の間には親族・同郷出身者等の既存の社会関係が存在しないにもかかわらず、中間卸売商は代金後払いで小売商に古着を提供するだけでなく、小売商の売り上げが少ない場合には生活補助も行っていた。一見するとマリ・カウリ取引は小売商に有利なようであるが、中間卸売商にとっては信用販売することで小売商を巧みに囲い込み、古着を効率的に売り尽くす手段となっており、両者の利害が一致する商慣行であることを、参与観察と多数の聞き取り調査によって明らかにしている。

本論文の第2の学術的な貢献は、インフォーマルセクター商業部門の商慣行の変容過程を、国家開発政策等の外生的な変動要因と関連づけて、跡づけたことである。上記のようなマリ・カウリ取引は不変の商慣行ではなく、古着流通の形態は、タンザニアの国家レベルならびに地方レベルでの政策の変更、それ

に伴う経済状況の変化によって影響を受け、零細商人がそれらに巧みに対応することで変容してきた。社会主義期の密輸と現金取引あるいは物々交換、古着輸入が合法化された経済自由化直後の競売取引、申請者の調査開始時に見られたマリ・カウリ取引、関税引き上げによる古着価格の高騰に伴うマリ・カウリ取引と現金取引の併用、そして現在は東南アジア製の新品の衣料品の流入とムワンザ市の都市計画による営業域指定に対する新たな対応が模索されていることを、零細商人とその経験者のライフ・ヒストリー調査の結果と、政策文書や先行研究を総合して、説得的に論証している。

本論文の第3の学術的な貢献は、商慣行の変遷にもかかわらず、零細商人が継続して維持している行動規範を析出し、彼らの集団化原理に関する試論を提示したことである。申請者は、両義的なウジャンジャ（*ujanja*。機転/狡猾さ）を発揮できることが零細商人に不可欠の資質であると主張する。ウジャンジャは小売商と顧客との代金をめぐる駆け引きで発揮されるだけでなく、小売商と中間卸売商との間でも発揮され、小売商の商品の持ち逃げに帰結することもある。しかしながら、このような小売商が戻ってきて商売を再開できることに申請者は着目し、零細商人の経済活動を支える都市における集団化は、ウジャンジャを基礎としており、共同性が一貫して強化されるようなものではなく、頻繁な参入・退出を前提としていることを指摘している。

本論文は、以上のような論点を緻密に組み合わせながら、都市インフォーマルセクター商業部門に分類される零細商人が、都市での厳しい経済環境を一種楽しみながら生き抜いていることを、アフリカ都市に関する先行研究を十分に踏まえつつ、豊富な事例を駆使してみごとに描き出している。

よって、本論文は博士（地域研究）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成21年6月10日、論文内容とそれに関連した事項について試問した結果、合格と認めた。

論文内容の要旨及び審査の結果の要旨は、本学学術情報リポジトリに掲載し、公表とする。特許申請、雑誌掲載等の関係により、学位授与後即日公表することに支障がある場合は、以下に公表可能とする日付を記入すること。

要旨公開可能日： 年 月 日以降